

「工業科担当教員の楽しみ方」

毎日の学校生活の中で、生徒のちょっとした言動に、確実な成長を感じるとき、私たち教員は無上の喜びを感じるものである。

例えば、私は学級通信に様々な工夫を凝らして学級経営を行ってきた。そしてそれによって学級のみんなが、お互いに様々な情報を共有し合い、一人ひとりの生徒が、前向きに学校生活に楽しみを見つけていく姿に、担当教員としてやりがいを感じないではいられなかった。

そんな日々の中で、工業科担当教員の私が、最も力を注いできたのは、「課題研究」を通して生徒が主体的に学ぶ姿勢を引き出し、具体的な進路にかかわる楽しさも味わうための支援をすることである。例えば、教育学部を志望する生徒は、小中学校へ出向く機会を作り、プログラミングの授業を体験した。その際には、小中学生が主体的に取り組める授業を一緒に考えた。担当教員として自分も共に楽しむことが出来た。また、農学部志望の生徒は、農業と情報を結び付けた研究に取り組むことで、無事希望学部合格することも出来た。このように生徒の進路実現のために、工業科担当教員として楽しみながら多くの支援ができたことで、私自身も大きな達成感を味わうことが出来た。

また、工業科担当教員として、彼らの将来に直接つながる「資格取得」に向けてしっかり導くことも大切にしてきた。「資格取得」への第一歩は、まず彼らが家庭学習の習慣をしっかり身に付けることであつた。そのための地道な努力の結果、合格率も上がり、さらにそれは自信と進路意識の向上にもつながっていった。次の段階として、3年生では自らが「取得」への気持ちを高め、それは学習への主体性にもつながって、探究学習の奥深さに向き合うまでに進化していった。

このように、自分がイメージしたことを形にし、生徒の大きな夢の一助となることができ、私は今、この仕事に対する喜びと魅力を大いに感じている。